

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年8月）

《今月のトピックス》

- 百日咳、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。
- 手足口病の報告が続いています。流水と石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年7月22日～8月18日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	2件	急性脳炎	2件
腸管出血性大腸菌感染症	10件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件
腸チフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	38件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	8件

1. **細菌性赤痢**:40歳代及び50歳代で、いずれも Sonnei(D群)、国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、O血清群はO157が7件、O103が1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が3件、感染経路等不明の報告が7件です。
3. **腸チフス**:30歳代で、国外での感染と推定されています。
4. **A型肝炎**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **レジオネラ症**:70歳代及び90歳代で、いずれも肺炎型です。感染経路等不明です。
6. **アメーバ赤痢**:60歳代で、経口感染と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が3件、医療器具関連感染と推定される報告が2件、手術部位感染と推定される報告が1件です。
8. **急性脳炎**:10歳未満及び10歳代で、いずれも病原体不明、感染経路等不明です。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳～70歳代で、血清型A群が3件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、性的接触3件(異性間・同性間2件、同性間1件)、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明2件)で、保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:10歳代～50歳代(ワクチン接種歴1回2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
13. **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期15件、早期顕症梅毒Ⅱ期14件、無症状病原体保有者9件です。性的接触による感染と推定される報告が34件(異性間30件、同性間2件、性別不詳2件)、感染経路等不明が4件です。
14. **百日咳**:10歳未満～60歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回5件、不明2件)で、家族内感染または周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が7件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

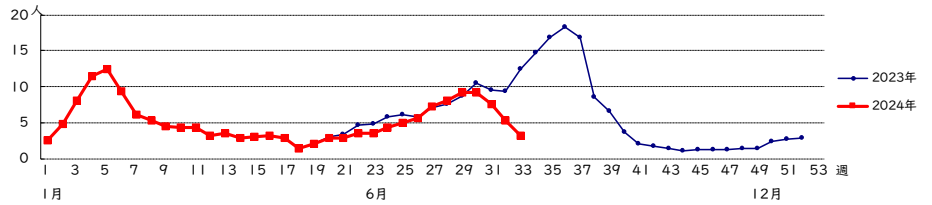
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第30週	7月22日～7月29日
第31週	7月30日～8月4日
第32週	8月5日～8月11日
第33週	8月12日～8月18日

◇ 定点把握の対象

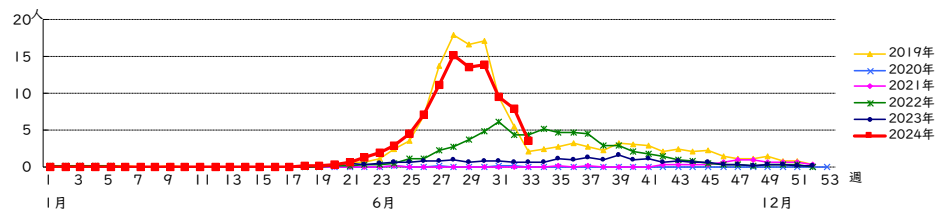
1 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第33週は3.13です。



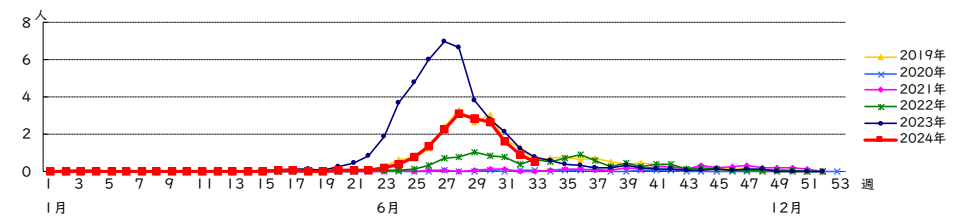
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第29週の15.27をピークに減少していますが、警報レベルは続いています。第33週は3.53です。



3 ヘルパンギーナ

2024年第22週以降増加しはじめました。第28週の3.14をピークに減少しており、第33週は0.56です。



4 性感染症(2024年7月)

性器クラミジア感染症	男性:51件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:18件	女性:0件	淋菌感染症	男性:14件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	1.25	1.50	2.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第30週～第33週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点6件、定点医療機関外2件でした。

8月23日現在、表に示した各種ウイルスの分離3株と遺伝子15件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第30週～第33週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	ヘル パン ギー ナ	手足 口 病
インフルエンザウイルス AH1型pdm09		2		
		-		
RS ウイルス	-	-		
	1	1		
パラインフルエンザウイルス 3型		-		
		2		
コクサッキーウイルスA5型	-	-		
	1	1		
コクサッキーウイルスA6型			-	-
			1	1
コクサッキーウイルスA10型	-		-	
	1		1	
新型コロナウイルス	-			
	1			
アデノウイルス	-	-		
	1	1		
アデノウイルス2型		1		
		-		
ヒトボカウイルス	-	-		
	1	1		
合 計	-	3	-	-
	6	6	2	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024 年第 30 週～第 33 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 12 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 7 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、細菌性赤痢、腸チフス、トキシックショック症候群 1 件、細菌性髄膜炎各 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からボレリア感染症疑い 2 件、レジオネラ症 1 件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024 年第 30 週～第 33 週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	12	O157 : H7 VT2 (6) O157 : H7 VT1 VT (3) O157 : H- VT1 VT2 (1) O26 : H11 VT1 (1) Og49 : Hg10 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (5) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (3) C群溶血性レンサ球菌 (1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 10A (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F (1)	
	細菌性赤痢	1	<i>Shigella sonnei</i> (1)	
	腸チフス	1	<i>Salmonella</i> Typhi (1)	
	トキシックショック症候群	1	メチシリン黄色ブドウ球菌 TSST+, PVL+ (1)	
	細菌性髄膜炎	1	<i>Lysinibacillus sphaericus</i> (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	ボレリア感染症疑い	1	痂皮	ライム病、回帰熱ボレリア遺伝子 陰性 (2)
		1	全血	
	レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】